## 診療科目

- 一般内科
- 消化器内科
- 呼吸器内科
- 循環器内科
- 腎臓内科
- 内分泌内科
- 緩和ケア内科
- 糖尿病内科
- 漢方内科
- 血液内科
- 外科
- 整形外科
- 泌尿器科
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 婦人科
- 歯科・歯科口腔外科

## 専門外来

- 漢方外来
- ラベンダー ( 更年期 ) 外来
- 臨床遺伝外来

## 併設センター

- 呼吸器センター
- 臨床研究センター
- 緩和ケアセンター
- 肝臓病センター
- 内視鏡センター
- 人工腎臓センター
- 予防医療センター
- 糖尿病・生活習慣病センター
- 化学療法・治療センター
- 在宅医療福祉センター

## グループ施設

- 老人保健施設　さくら館
- 特別養護老人ホーム　養生の杜カムイ
- デイサービスセンター　ほたる
- グループホーム　K 館
- グループホーム　アテナ
- 特別養護老人ホーム　仁慈苑
- デイサービスセンター　透空

### 病院の理念

医療の主人公は患者、生活者の皆様です

## 基本方針

わたくしたちは、

・みなさまにわかりやすい説明と必要な情報を提供し、同意に基づく医療を進めます

・みなさまの人格、プライバシーを尊重します

・みなさまにまごころをこめて、親切に接します

・みなさまに必要な医療を、地域と連携して提供します

・みなさまにより良い医療を提供できるよう、自らを磨きます

・みなさまの健康増進のために、全力を尽くします


医療法人社団 慶友会
吉田病院


■診療受付時間

【平　日】 午前　8:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00

【土曜日】 土曜　8:00 ～ 12:30

【休診日】 日曜日、祝日、年末年始


〒070-0054　旭川市 4 条西 4 丁目 1-2

0166-25-1115

https://www.keiyukai-group.com/yoshi-hp/

# すこやか

KEIYUKAI NEWSLETTER


2026.1
vol. 88
free paper


ご自由にお持ちください

医療法人社団 慶友会 吉田病院
YOSHIDA HOSPITAL

# 謹賀新年

医療法人社団慶友会
社会福祉法人慶友会
理事長
**吉田　良子**

新年あけましておめでとうございます。
私が理事長に就任して十三年目を迎えた昨年、年初に掲げた「高い目標設定」「スピード感」「主体性」を、現場の皆さまが日々体現してくださったことに、心から感謝申し上げます。皆さまの姿勢そのものが、慶友会の力であり誇りです。
一方で医療・福祉を取り巻く環境は、全国でも厳しい経営が続き、地域でも統廃合が進むなど、「静かな有事」と言える状況です。だからこそ私たちは、ここから“ハイブリッド”に進化し続けます。
一点目は、内科に強い病院として標準医療を守りながら、がん等の専門性を高め、予防から治療、ターミナルまで切れ目なく支える「がんトータルケア」の確立。
二点目は、さくら館・カムイ・仁慈苑、在宅医療センター、豊岡包括支援センター等と一体となり、どの段階からでも受け入れ、暮らしと人生を支え続ける「支える医療」です。
そして両輪を支えるのが医療 DX。クラウド型の次世代電子カルテを核に、AI に任せられることは任せ、その分、患者さま・ご家族と丁寧に向き合い、人の温かさを真ん中に置いた医療を深めます。
2026 年は午年。力強く駆け出し、風を切って前へ進む年です。慶友会もまた、変化の時代に歩みを止めず、「発信する慶友会」として挑戦を重ねてまいります。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

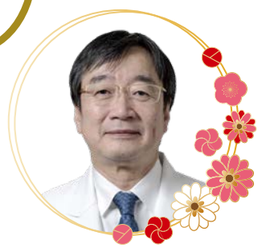
理事
**吉田　琢哉**

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、医療の変革期にあって多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。
2026 年は、政権の刷新により医療・福祉分野への支援が一層強化され、地域での連携や人材育成にも新たな展開が期待されています。また 4 月の診療報酬改定をはじめ、制度面では追い風となる要素も見込まれますが、一方で医療現場には高齢化、慢性的な人材不足、 業務の高度化といった課題が山積しています。こうした時代においてこそ、私たち自身が能動的に動き、変化を自らの成長へと変えていく力が求められます。地域医療が再定義され、情報技術の進歩やチーム医療の深化が加速する今こそ、医療の新たな可能性を切り拓く好機と考えます。
このような社会環境の中で、慶友会は本年より“ハイブリッドな医療体制”のさらなる進化を目指します。がんの予防から治療、そしてターミナルまで切れ目なく支える「がんトータルケア」と、高齢者施設・在宅医療・地域包括支援センターなどが連携し、暮らしと人生を支える「支える医療」。この二つの使命を、AI 技術や電子カルテの活用をはじめとする医療 DX の推進によって、より確かな仕組みとして実現してまいります。
あわせて、地域の皆さま一人ひとりが主体的に健康を育み、支え合える社会を目指し、「生活者中心の健康支援活動」にも積極的に取り組んでまいります。
本年も職員一同、信頼され、安心して選ばれる慶友会であり続けられるよう、誠心誠意努めてまいります。
皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

臨床研究センター所長
**吉田　遼平**

**新年のご挨拶**

皆さまにとって、本年が健やかで実りある一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。
昨年は私自身、「がん診療の強化」と「研究の推進」を軸に取り組んできました。気管支鏡検査は目標数には届きませんでしたが、当院で肺がんの診断から治療へとつなげられた患者さんが現れ、確かな前進を感じられた一年でした。研究でも論文発表や助成金獲得など成果を積み重ねる一方、AMED など大型研究費では採択に至らず、課題と学びの両方を得ました。
振り返れば、思うようにいかなかった時にこそ真価が問われます。「継続は力」と自分にも周囲にも言い聞かせながら、一歩一歩積み重ねる姿勢の大切さを強く感じた一年でした。
そのような中で、象徴的な出来事として、慶友会の健診バスで異常が見つかり、当院で迅速に精査・初期対応まで行ったケースがありました。かつては難しかったこうした流れが、今では慶友会グループ内で完結できる体制として形になりつつあり、私たちが目指す医療の方向性を示すものでした。
本年は「慶友会だからこそ提供できる医療の本質」をさらに洗練させたいと考えています。がん診療では診断から治療、緩和までの流れをより強固にし、研究では大型研究費への挑戦や論文実績の更新を通じて、社会に貢献できる基盤を築いていきます。慶友会の強みを最大限に活かし、地域で本当に必要とされる医療をつくっていきたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



最高顧問
## 大崎　能伸

**新年に向けて**

2025 年の我が国の医学会は、細胞性免疫応答の強度を調整するリンパ球である Treg を発見した坂口志文先生の第 81 回ノーベル生理学・医学賞受賞という素晴らしい出来事で幕を閉じました。Treg は感染症の重症化にも関連し、COVID-19 やインフルエンザの重症化や遷延にも関わっている可能性があります。

ここ数年静かだったインフルエンザは、紀元前から記録が残る疾患です。1892 年にロシア風邪の病原菌として北里柴三郎先生がインフルエンザ菌を分離していて、インフルエンザの病原体ではありませんでしたが、今でも肺炎の病原菌として重要な細菌です。ロシア風邪はクリミア戦争の頃にも流行していて、ナイチンゲールも関わっていたと思われます。

北里柴三郎先生は、受賞はできませんでしたが、破傷風とジフテリアの血清療法の開発によって第 1 回ノーベル生理学・医学賞の 15 名の最終候補者まで選ばれていました。1918 年にはスペインに派兵されたアメリカ兵からスペイン風邪が世界に広がりました。インフルエンザがウイルスによる感染症であることは、1933 年にイギリスで患者から分離された試料からフェレットに感染させる実験によって示されたとされます。ところが、それ以前にインフルエンザがウイルス感染症であることを示した日本の研究者がいて、スペイン風邪が日本に入った 1919 年に山内保先生らが 24 人の志願者に対する感染研究によって世界で初めて濾過性の病原が原因であることを突き止めています。この成果は Lancet に掲載されています。

ノーベル賞に届かなくても、日本の医学研究者は科学の進歩を支える多くの功績を残しています。2026 年もノーベルウィークでどのような科学者が栄誉を獲得するか楽しみにしたいと思います。

病院長
## 馬場　勝義

あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

少子高齢化、人口減少社会を迎えて久しく、医療環境はますます厳しさを増しております。医療従事者の確保、働き方改革への対応、そして地域医療連携の強化など、私たちが取り組むべき課題は山積しております。with コロナにあって、当院は内科専門の医師を中心に、今後も地域に選ばれる病院をめざしてまいります。

さて、今年は午年です。馬は古来より人々と共に歩み、力強さと勤勉さの象徴とされてきました。「馬力」という言葉があるように、馬は困難な道のりも粘り強く進む動物です。また、馬は仲間と共に走ることで、より大きな力を発揮するとも言われております。馬にあやかり、今年は職員一同が馬力全開で地域医療に邁進してまいりましょう。私も「馬場」の名に恥じぬよう、先頭に立って駆け抜ける所存でございます。

昨年は皆様のおかげで多くの患者様にご信頼いただくことができました。これもひとえに、日々の業務に真摯に取り組んでくださる職員の皆様のおかげと、深く感謝しております。本年も職員一同、心を一つにして、患者様お一人おひとりに寄り添った温かい医療を提供してまいります。皆様の健康と、ご家族のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

職員の皆様、今年もどうぞ宜しくお願い致します。

第20回 慶友会グループ
医療法人社団 慶友会 吉田病院 医学講演会

# 『緩和ケアに正解はありますか？』
## ～その人らしさを支える医療のあり方を考える～
を開催しました

会場の様子

一般講演（山口郁恵認定看護師）

特別講演（前野宏先生）

2025年11月16日（日）、旭川市大雪クリスタルホールにて「第20回 慶友会グループ 医学講演会」（テーマ：緩和ケアに正解はありますか？ ～その人らしさを支える医療のあり方を考える～）を開催しました。

前回より6年ぶりの開催となる当医学講演会、当日は地域住民や医療従事者など256名が来場し、ほぼ満席の中、会場は温かな雰囲気に包まれました。

はじめに、JA北海道厚生連 旭川厚生病院の山口 郁恵認定看護師より、一般講演「自分らしく生きるために ～もっと身近に緩和ケアを！～」と題してお話をいただきました。
医療従事者として日々のケアに寄り添う視点でお話しいただき、参加された皆様の深い共感を呼びました。

続いて、医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院 名誉院長／NPO法人ホスピスのこころ研究所 所長の前野 宏先生による特別講演が行われました。「ホスピスのこころを究める―日本のホスピス緩和ケア50年が築きあげたもの―」をテーマに、緩和ケアの歩みとその本質に深く迫る内容で、皆様一つひとつの言葉に真剣に耳を傾け、医療や人生について思いを深めていました。

座長（吉田遼平副院長・臨床研究センター所長）

講演会終了後のアンケートでは、今回の講演会の感想について、「緩和ケアについて色々と学ぶことができた。自分の中での思いについても考えることができ、有意義な時間でした」、「緩和ケアは、施設で死ぬための場所ではなく、生きるための場所という考え方をすれば、限られた人生を前向きに生きることができると思いました」、「患者さんやご家族の声を聞くことの大切さが、心に染みました」といった声が寄せられました。

また、慶友会に対する要望については、「緩和ケア病棟を続けてほしい。旭川に一つだけとは知らなかった」、「今後も地域住民の医学、看護、福祉の知識の情報発信を続けていただきたい」といった地域医療への期待と講演会継続を期待する声が多く寄せられました。

前野宏先生・吉田良子理事長・山口郁恵認定看護師

### ≪今回の講演会を終えて≫

吉田病院は、道内を代表する緩和ケア病棟（PCU）を有する医療機関として、患者とご家族が安心して“その人らしく生きる”ことを支える医療を実践しています。
今回の講演会は、地域の皆さまとともに「いのちに向き合う医療の本質」を考える貴重な機会となりました。

今後も慶友会グループは、地域医療の発展と緩和ケアの質の向上に向けた情報発信を続けてまいります。